

国際ボランティア学会 ニュースレター NO. 20

2013年11月29日
国際ボランティア学会事務局
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2
大阪大学大学院人間科学研究科
人間開発学講座内
Tel & Fax : 06-6879-8064
E-mail: volsocio@hus.osaka-u.ac.jp

1. 第15回大会へのお誘い
2. 第15回大会概要
3. 第14回大会の報告
4. 第14回隅谷三喜男賞の公募のお知らせ
5. 理事選挙に関するお願い
6. 2012年度の会計報告
7. 会費納入のお願い
8. 「ボランティア学研究・第13号」のお知らせ

1. 第15回大会へのお誘い

内海成治 国際ボランティア学会会長

暑く長かった夏が終わり、短い秋、そして冬が迫っているようです。この10月には多くの台風が日本に襲来し、各地に大きな被害をもたらしました。特に伊豆の大島では甚大な土砂災害によって、多くの方が亡くなられ、そしていまだに行方不明の方がおられます。心よりご冥福とお見舞いを申し上げる次第です。

宮澤賢治は大島を訪れその感動を三原三部という詩に残しました。第二部は大島の土と農業について詠うのですが、冒頭で土について次のように言っています。

かういふ土ははだしがちゃうどいゝのです
噴かれた灰が・・・のメソッドとかいふやうなもので
気層のなかですっかり篩ひわけられたので
こゝらはいちめんちゃうど手頃な半ミリ以下になってゐて

三原山の噴火で作られた土壌を丁寧に詩っています。その大島の土が大きな被害をもたらしたのです。この詩によって大島に親しみ、何度か訪れた大島の被害の大きさ、人々の悲劇と困難を思うと言葉がありません。

11月の連休には多くのボランティアが訪れて、人々の復旧活動を手伝っていると報じられています。一日も早い復旧を祈らずにはおられません。

さて、2013年度第15回大会は、久しぶりに東京での開催となります。東京での開催は確か5年前のお茶の水女子大学で行われたと記憶しています。今回の会場は早稲田奉仕園で、早稲田大学に近く、赤煉瓦の早稲田教会も隣接しています。

今回の大会のテーマは「新しい公共」です。様々な可能性を秘めた言葉ですが、その内容やその力は今一つ認識されていません。今回の大会実行委員長の大西健丞さんが長

年検討してきたテーマであり、様々な角度からの論議が期待されます。これからの市民社会とボランティアにとって重要な課題であり、是非多くの会員と市民の皆様の参加によって良い討論と知の共有の場となればと願っています。

また、2013年3月に本学会員であった村井吉敬先生（早稲田大学教授・上智大学名誉教授）が亡くなりました。私自身、村井先生とのお付き合いは半世紀にも及びますが、その間常に教えられました。まだまだ活躍していただきたかったのに本当に残念でたまりません。謹んでご冥福をお祈りいたします。本学会では村井先生のご功績を記念して国際ボランティア実践賞として村井吉敬賞を制定すると聞いています。村井先生のお名前とご功績がこういう形で私たちの心にのこることは、うれしいことです。

このように常に前進している国際ボランティア学会の大会に多くの皆様が参加されることを願っています。

2. 第15回大会概要

2013年度第15回大会は、5年ぶりに東京で開催します。会場となる早稲田奉仕園は、「国際的な視野に立って社会を洞察し、他者と共に生きる人間形成の場」として1908年設立され、シンポジウムを開催するスコットホールは、東京都選定の歴史的建造物ともなっている素晴らしい場所です。アクセスの良い東京の中心地に位置します。

今回の大会では、市民に開かれ、市民が関わり合いながら実現する「新しい公共」の実践と今後の方向性を、今一度再考することをテーマに掲げております。企画している2本のシンポジウムは、21世紀にふさわしい災害後の社会の復興のありかたを東日本大震災、海外の事例から検討する「復興後のまちづくり」、そして、新しい公共政策の過去を政策立案者と共に検証し、今後の展望を提言する「新しい公共」です。

また、本学会より、ボランティア実践賞として、村井吉敬賞を設置致します。村井先生（早稲田大学教授・上智大学名誉教授）は、国際ボランティア、国際開発、そして本学会にも設立以来の長年の貢献をされてきましたが、2013年3月にご逝去されました。私の大学時代の恩師でもあります。市民を巻き込み、現地の人々との強い連携のもとに東南アジアに関わられた村井先生ご自身の強いボランティアリズムが今後も引き継がれていくことへの思いが込められた賞です。

今回の大会は、参加費を設けず、シンポジウムのみならず、すべてのセッションを無料で公開いたします。ぜひ、お誘いあわせの上、多数の方々のご参加をお待ちしております。

大会実行委員長 大西 健丞
特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン代表理事/統括責任者
公益社団法人 シビックフォース代表理事

【日時】2014年3月1日（土）

【会場】早稲田奉仕園

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2丁目3-1

TEL 03-3205-5401

東京メトロ東西線「早稲田駅」より徒歩5分、
都営地下鉄副都心線「西早稲田駅」より徒歩8分

【大会実行委員長】大西 健丞（特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン代表理事/統括責任者、公益社団法人 シビックフォース代表理事）

【テーマ】新しい公共

【大会スケジュール概要：予定】

- 10:00-12:00 分科会（演題発表）
12:00-13:00 昼食休憩/ 理事会
13:00-13:30 総会
13:30-15:10 シンポジウム①復興後のまちづくり
15:40-18:00 シンポジウム②新しい公共
18:30-20:30 懇親会

〈シンポジウム〉

○「復興後のまちづくり」

ファシリテーター：中村安秀氏（大阪大学大学院人間科学研究科教授）
根木佳織氏（公益社団法人 Civic Force 事務局長）
パネリスト（予定）

- ・バンングラデシュの洪水と貧困： 日下部尚徳氏（文教学院大学助教）
- ・陸前高田の復興とまちづくり：岡本翔馬氏（桜ライン 311 代表理事）
- ・障害者の復興：野際紗綾子氏（難民を助ける会元東北事務所長）

○「新しい公共」

ファシリテーター：内海成治氏（京都女子大学教授）
パネリスト（調整中）

〈発表申込期間〉

- ・発表申し込み期間は 2013 年 11 月 18 日から 12 月 25 日までとします（締め切り厳守）。
- ・応募される方は、国際ボランティア学会のホームページより発表申込書をダウンロードし、メールによるファイル添付で第 15 回大会実行委員会専用アドレス volsocio15@gmail.com まで送付してください。
- ・上記のフォームによるエントリーで、12 月初旬の大会実行委員会で発表種別を決めた後、応募者にお知らせします。
- ・報告要旨集の原稿は、メールによるファイル添付で第 15 回大会実行委員会専用アドレス volsocio15@gmail.com まで送付してください。締め切りは、2014 年 1 月 31 日必着です。

〈原稿の作成方法〉

- ・原稿は、Windows 版もしくは Mac 版の「ワード」文書の形式に限ります。
- ・1 題につき A4 用紙で 1 枚とし、余白は上下左右 25mm、1 行目に演題名（タイトル）、2 行目に発表者氏名（所属名）と共同発表者（所属名）、3 行目にキーワード 5 つ以内、5 行目から本文を記入してください。

〈特定テーマ研究・自由研究発表〉

発表時間 10 分＋質疑応答 5 分の計 15 分とし、口頭で発表してください。

〈ポスター発表〉

発表資料を模造紙 1 枚分（790×1,090mm）にまとめて掲示し、参加者に対して適宜説明や質疑応答をしてください。

3. 大会申し込みについて

・本大会は、分科会、シンポジウム共に、学会員以外にも公開いたします。大会参加費は無料ですが、懇親会費は一般会員 3,000 円、学生会員 1,000 円を予定しております。会場、資料の準備の都合により、参加される場合は、メール (vol socio15@gmail.com) もしくはお電話・FAX (お名前、ご所属、連絡先をご記入いただき第 15 回大会実行委員会宛て) で申し込みください。

・宿泊については、ご自身での手配をよろしくお願ひします

<お問い合わせ先>

国際ボランティア学会第 15 回大会実行委員会

メール：vol socio15@gmail.com

FAX：06-6879-8064

郵送：〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2

大阪大学大学院人間科学研究科 人間開発学講座内

国際ボランティア学会第 15 回大会実行委員会

3. 第 14 回大会の報告

2012 年度・第 14 回大会開催では、3 つの新しいことに試みしました。

まず 1 つ目が、開催日を 1 日に集約したことです。午前の部では研究発表 (通常のプログラム) を、午後の部では市民公開プログラムを開催しました。研究発表では、研究者による学術発表だけではなく、NGO/NPO などの活動実践者や大学院生・学部生による活動報告も多く、研究と実践の成果を広く共有できる場をつくることができました。

2 つ目が、優秀発表賞を設けたことです。本大会実行委員の 4 名が審査と選考を担当し、卓越した研究発表を表彰しました。受賞者は、世森歩さん (立命館大学社会学研究科) の「デジタルツールによる外国人児童学習支援ネットワーク形成に向けて—京都市におけるインドネシア人児童学習支援の実践を事例に—」及び田室寿見子さん (パフォーマンス・ユニット Sin Titulo) の「演劇による多文化共生への試み」の 2 名でした。

3 点目が、昼食休憩の時間をランチ・ディスカッションとし、ランチ持参で自由に意見交換できる場を設定しました。大学生や若い研究者が参加者の大半で、各地の大学ボランティアセンターの実践や成果について活発な議論が行われました。

その他、親睦会では愛知らしい演出にも取り組みました。愛知県内に多く暮らすペルー人コミュニティに協力依頼し、彼 (女) たちの手料理を囲みながら、南米ペルー・アングスの生演奏を聴きながら、懇親いただける場を用意しました。

親睦会に参加した会員からは、「美味しく何度もおかわりしました」などの感想が寄せられました。また、調理を担当した外国人住民からは、「多くの人に喜んでいただけて嬉しい」など、喜びに満ちた感想が届きました。

本大会開催は、盛会のうちに無事、終了することができました。参加者からも、心地よく楽しめた学会だったと御礼の声が寄せられました。これも、ひとえに実行委員の皆様のご尽力の賜物と厚く感謝申しあげます。本大会開催にご協力いただいた多くの方々に、この場を借りて厚く御礼申しあげます。

大会実行委員長 小島祥美 (愛知淑徳大学 准教授)



公開シンポジウム「お金の地産地消から、地域の未来を描く」



緊急フォーラム
「東海地震に負けない！みんながやるべきことは」



優秀発表賞・授賞式



東日本大震災被災地エリア授産品販売「ミンナ DE カオウヤ」

大会では、第13回隅谷三喜男賞の受賞者の発表が行われました。研究奨励賞は南出和余会員に、実践賞は「CODE 海外災害援助市民センター」、「NPO 法人 Mixed Roots×ユース×ネット★こんぺいとう」の2団体に授与されました。

4. 第14回隅谷三喜男賞および村井吉敬賞創設について

国際ボランティア学会会員で学会にも多大なご貢献がありました村井吉敬先生が2013年の3月に逝去されました。2014年の3月に開催されます大会では村井先生を偲ぶ企画を予定していますが、あわせ、学会賞として、現在の隅谷三喜男賞に併せ村井吉敬賞を創設したいと考えています。具体的にはこれまでの隅谷三喜男賞の著作・論文部門をそのまま隅谷三喜男賞とし、これまでの実践部門を村井吉敬賞といたしたいと考えております。

現在、規程の改正作業等を行っていますが、3月の大会に併せ、改訂予定の隅谷三喜男賞と創設予定の村井吉敬賞の公募を開始いたしたいと思っております。応募様式などは自由です。候補についての情報提供、自薦・他薦の応募をお願いできれば幸いです。なお、応募締切期日は2013年12月27日(木)です。

学会賞選考規定（案）

1. 学会賞の設置

国際ボランティア学会の賞として隅谷三喜男賞、村井吉敬賞を設ける。

2. 主旨

（１）隅谷三喜男賞は、初代会長隅谷三喜男博士を記念し、ボランティア学研究およびボランティア活動の発展を期して、研究を奨励することを目的とする。受賞者には賞状および記念品を授与する。

（２）村井吉敬賞は、学会の発展に多大な貢献のあった村井吉敬教授を記念し、実践を奨励することを目的とする。受賞者には賞状および記念品を授与する。

3. 対象者

隅谷三喜男賞、村井吉敬賞併せて毎年度原則、2名（個人あるいは団体）

4. 選考対象

（１）隅谷三喜男賞：著作・論文（学会誌掲載論文、およびボランティア学に関する著書・論文）賞の対象となる著作・論文等を、自薦あるいは他薦により、本学会賞選考委員会あてに、本賞に応募する旨を明記して、申し出た者。

（２）村井吉敬賞：実践賞の対象となる活動記録を、自薦あるいは他薦により、本学会賞選考委員会あてに、本賞に応募する旨を明記して、申し出た者。

5. 賞選考委員会

本学会理事の互選による5名以内で構成する。選考委員の任期は3年とし、再任を妨げない。選考委員長は選考委員の互選とする。選考委員会は必要に応じて会員の協力を求めることができる。

6. 選考手順

賞選考委員会は選考を当該年の総会以前におこない、理事会の決議を経て、大会および総会において発表する。

5. 国際ボランティア学会 理事選挙に関するお願い

さて、この度選挙を行うことになりました。役員（理事）選挙に関しましては、同封の会則第6条7条及び細則をご参照ください。本学会の役員（理事）は定員25名で、会員の皆様からの立候補を受け付け、立候補者が定員（25名）を超えた場合には選挙を行います。

今回の選挙にあたっての選挙管理委員は下記の4名の方をお願いいたしました（50音順）。

澤村 信英会員（大阪大学人間科学研究科）

高橋 真央会員（甲南女子大学 多文化コミュニケーション学科）

中村 安秀会員（大阪大学人間科学研究科）

深尾 幸市会員（大阪青山大学）

立候補の締め切りを2013年1月31日（金）といたします。同封の立候補届に必要な事項をご記入の上、学会事務局宛に、郵便、ファックス、またはメールでご連絡していただければ幸いです。

連絡先：

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

大阪大学大学院人間科学研究科 国際ボランティア学会事務局

FAX: 06-6879-8064

Mail: volsocio@hus.osaka-u.ac.jp

6. 2012年度の会計報告

2012年度の会計報告は以下の通りです。

2012年度国際ボランティア学会 収支決算表

(2012年4月1日～2013年3月31日)

収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差額	備考
前年度より繰越	2,500,000	2,136,309	-313,691	
年会費	540,000	511,000	-29,000	
学会誌販売	50,000	228,579	178,579	別刷り代金を含む
寄付	25,000	10,000	-15,000	
雑収入	5,000	97,040	92,040	立命館大学からの入金（謝金代）、 銀行利子
合計	3,120,000	2,982,928	-137,072	

支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差額	備考
大会開催費	300,000	300,000	0	
印刷費	1,000,000	991,830	-8,170	13号印刷(2月支払い)
賃金	100,000	0	-100,000	
通信・運搬費	140,000	51,569	-88,431	
物品購入費	10,000	48,217	38,217	封筒代・隅谷賞記念品など
その他	250,000	185,696	-65,354	テープ起こしなど
次年度へ繰越	1,320,000	1,405,616	85,616	
合計	3,120,000	2,982,928	-137,072	

・差額は、(決算) - (予算) で計算

6. 会費納入のお願い

学会運営は、基本的に会員皆様からの会費で支えられております。是非とも、学会の活動にご協力をお願いいたします。また、住所・所属等を変更された場合は、速やかに事務局までご一報くださいますよう、お願いいたします。

2013年度分の会費は以下の通りです。

[年会費] 一般会員：5,000円／学生会員：2,000円／法人会員：10,000円

同封の振込用紙をご使用のうえ、お振り込みください。(未納の方へのみ送付)

7. 「ボランティア学研究・第13号」のお知らせ

国際ボランティア学会誌の「ボランティア学研究」は、会員外の方でも、購入することが可能です。

最新号：「ボランティア学研究・第13号」(2013年2月発行)

特集：「震災・ボランティア・コミュニティデザイン」

価格：1冊 2,000円＋郵送料

購入希望の方は、国際ボランティア学会事務局まで気軽にお申し込みください。

学会事務局連絡先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

大阪大学大学院人間科学研究科 人間開発学講座内

国際ボランティア学会事務局

Tel & Fax: 06-6879-8064

Email: volsocio@hus.osaka-u.ac.jp